第２回城端線・氷見線ＬＲＴ化検討会 議事概要

１．日時
令和３年３月 25 日（木）18 時から 19 時 30 分まで

２．場所
高岡文化ホール　第２会議室

３．出席委員
中谷座長、河村座長代理、篠田委員、齊藤(一)委員、齊藤(宗)委員、森下委員

４．議事（概要）
（１）需要予測調査結果報告について
・城端線・氷見線の 2019 年の 1 日あたり利用者数は 12,900 人
・鉄道のまま現在の運行間隔（ピーク時 30 分間隔、オフピーク時 60 分間隔）で運行した場合、2040 年には人口減少により 9,100 人となり 29%減少（2019 年比）
・現在と概ね同じ運行間隔（ピーク時 30 分間隔、オフピーク時 60 分間隔）で運行した場合、LRT 化のみ実施した場合は 9,700 人となり 25%減少、LRT 化しさらに直通化した場合は 10,900 人となり 16%減少
・富山ライトレールと同じ運行間隔（ピーク時 10 分間隔、オフピーク時 15 分間隔）で運行した場合、LRT 化のみ実施した場合 17,400 人となり 35%増加、LRT 化しさらに直通化した場合 18,800 人となり 46%増加

（２）各市のまちづくり等の検討状況について
各市が庁内に研究会を設置し、地域交通の維持や観光需要の創出等の観点から検討
＜各市からの意見等（順不同）＞
・各種の交通施策、まちづくり施策、ソフト施策等について広く検討
・既存駅の周辺整備による城端線・氷見線の利用促進と中心市街地の活性化を検討
・既存駅のパーク＆ライド駐車場の整備、駅前広場の整備、アクセス道路の拡幅を検討
・城端・氷見線を観光で利用してもらうため二次交通の充実を検討
・新駅設置は利用者の利便性向上、利用者の増加の観点から検討
・新駅設置の際は、民間開発による宅地開発の誘致を検討
・新型コロナウイルス感染症の影響を受け市の財政状況は厳しくなっており、ＪＲ西日本提案時から社会情勢が変化していることから、慎重に協議していく必要がある。
・重要な交通インフラである城端線・氷見線を次世代に引き継ぐことが不可欠である。
・LRT 化については初期投資やランニングコストを検討した上で、LRT だけでなく幅広な交通体系を検討していく必要がある。
・今後の需要予測調査の結果や各市における新駅設置等の検討状況を踏まえたうえで、技術的あるいは物理的な条件や収支面に関し、この検討会でさらに議論を深めていく必要がある。

JR 西日本の発言内容
・コロナ禍で厳しい経営状況であるものの、まちづくり等を含めた公共交通がどうあるべ

きかについての検討が重要であることから、引き続き本検討を進めていきたい。
・需要予測調査の結果については、運行間隔を短くし高頻度の運行を行えば需要の維持に寄与するということで、可能性ではあるが、未来に期待が感じられる結果と受け止めた。
・今後の調査では沿線開発や公共施設の集約など各市におけるまちづくりにより生まれる需要といった観点での検討の深度化が必要である。
・高頻度運行の実現や新駅整備は事業費およびLRT化後の運営収支に影響を及ぼすことから、各市のまちづくりを踏まえて城端線・氷見線にどのような機能を求めるのか慎重に考えていく必要がある。
・費用対効果の検証の際には、直接的収入だけではなく、地域経済の活性化や健康寿命の延伸、環境負荷の低減など社会的便益と呼ばれるような効果も含め、まちづくりにおける公共交通として総合的に考えていく必要がある。

（３）今後の検討の進め方について
〇新駅を増設するとした場合の需要予測調査の実施
　各市のまちづくり等に関する検討状況を踏まえ、仮に一定の条件のもと新駅を増設するとした場合の需要予測調査を実施する。
〇LRT化する場合の事業費調査の実施
　各市においては、引き続き、まちづくり等について具体的な検討を進めるとともに、それらを一定程度踏まえてLRT化する場合の事業費調査を実施する。
　これらにより、持続可能な運行を実現するために解決する必要がある課題について検討する。